

次号予告

特集／脳血管障害

- チーム医療におけるリスク管理……………九州厚生年金病院 三好正堂
 脳血管障害によるパーキンソン症候群
 ……………大阪循環器病センター 小川真・他
 パーキンソン症候群に対する理学療法
 ……………府中神経病院 池田誠
 劣位半球症候群のリハビリテーション
 ……………群馬大学リハ研究所 平井俊策
 脳卒中に対する通所施設としての役割
 ……………国療長崎病院 浜村明德・他
 とびら Negligence とは……………金沢大学医療技術短大 荻原新八郎
 講座 運動生理学 4. 運動と循環……………順天堂大学体育部 青木純一郎
 プロGRESS てんかんのリハビリテーション……………慶応大学 原常勝
 リハビリテーション・インフォメーション
 <福井県>……………武生市福祉部 佐々木良一・他
 <愛知県>……………県立精神病院 吉田和昭・他
 あんてな 青年海外協力隊(現地からのレポート)……………前田信子・谷口裕
 資料 第16回理学療法士・作業療法士国家試験 模範解答(V)(1981年度)

編集後記

猛暑が続けばさわやかな初秋を待ちこがれ、涼しさに風邪を引きそうになれば照りつける真夏の太陽が恋しくなる、といったものねだりの心性が揺さぶる夏も終わりです。皆様の夏休みはいかがでしたか？

今月は古くて新しいテーマ「面接」の特集です。ベテランであれ、駆け出しであれ、面接は臨床場面では日常茶飯事的にしています。誰にでもとりつきやすい反面、奥義をきわめることが難しい医療行為でもあります。少し欲ばって、専門を異にする立場から、焦点を少しずつ変えて面接を論じて頂き、座談会では文字化しにくい面を語って頂きました。

松井論文では「面接の構造」という、あらゆる面接に共通する基本的な観点に着目したいと思います。福屋氏、山口氏、内村氏には、PT・OTの診断面接ともいうべきインターク面接をとり上げて頂きました。面接から得る情報の内容はもちろん、最初の出会でもある面接場面での細かな配慮が具体的に述べられています。佐野氏

には臨床心理の専門家として治療面接に焦点をあてて頂きました。治療者の逆転移についての項は、障害の如何を問わず、治療場面での人間関係をふり返る時の貴重なヒントになるのではないのでしょうか。横田氏はきめの細かい、具体的、実際の相談面接論を展開し、まさにケースワーカーの面目躍如です。障害受容を“患者のこころの歩みに治療者が同伴する長い旅”との表現は、印象的です。

講座「運動生理学」の連載は毎回、学生にもどった気分で読んでいます。専門外のことを、あまりアレルギーを起こさずに目を通せるのも雑誌の良さかもしれません。

診療報酬の改定も忘れずに目を通して頂きたい情報です。

秋の始まりは、夏には気づかなかった疲労を感じるだけの余裕をもたらしてくれます。身心のバランスが回復するまでは、季節のうつりかわりを楽しみたいものです。

(富岡 詔子)

<編集顧問>

天児民和
 九州労災病院名誉院長
 五味重春
 埼玉県生活福祉部
 砂原茂一
 国立療養所東京病院名誉院長
 津山直一
 東京大学教授・整形外科
 水野祥太郎
 川崎リハビリ学院長
 (五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上田敏
 東大リハビリ部
 荻島秀男
 リハビリテーションペ
 イン(痛み)クリニック
 かわらび診療所
 大喜多潤
 兵庫県リハビリセンター
 寺山久美子
 都心身障害者センター
 富岡詔子
 山梨日下部病院
 奈良勲
 金沢大学医療技術短大
 福屋靖子
 筑波大学
 松村秩
 都養育院リハビリ部

<編集同人>

安達克己
 池田俊雄
 伊東元
 宇都宮初夫
 大丸幸
 金子翼
 鎌倉矩子
 紀伊克昌
 木村信子
 駒沢治夫
 佐藤馨
 嶋田智明
 鈴木明子
 関昌家
 高橋正明
 中屋久長
 橋元隆
 藤沢しげ子
 矢谷令子
 山下隆昭
 (担当 細田・西塚)